

「多読を効果的に進める方略とは」

多読指導研究グループ*

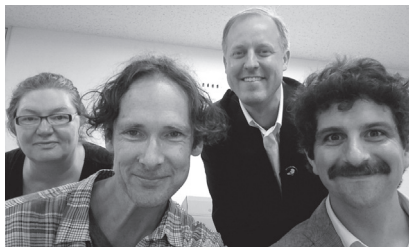
外国語で多読をするメリットの一つとして、平易な文章を大量に読むことで、流暢な読みが可能になると前号で述べた。このような読み方は、母語で文章を読んでいる状態に近いと言える。外国語で読むとなると制約はあるが、優れた読み手は、母語で文章を読む時と同じように、無意識的に様々な読解方略（ストラテジー）を駆使している。たとえば、「背景知識の活性化」によって、読んだ文章と既得の知識が結びつけられ、意味理解が促進される（天満，1994）。また「予測」や「推測」も読解において有効な方略であると言われており、それらを指導することで理解が深まるという報告も多い。また、文章構造に関する知識（例：物語、エッセイ、論文）も、構造上の展開の予測や、未知の情報の理解を助けると言われている。では、外国語においてもこのような「流暢な読み」を可能にするためには、どのように多読を進めればよいのだろうか。以下に効果的な方略を紹介する。

(1) 自分の興味にあった本を読む。 Campbell, 他 (2015) では、多読成績優秀者にインタビューしたところ、お気に入りのシリーズの本を選んで読む傾向が高いことが分かった。同じシリーズを読むことで、文章のパターンに慣れ、読みが速くなるだけでなく、読むことへの抵抗がなくなると報告している。

(2) 易しいレベルの本を選ぶ。 最初から難しい本を読んだ学生よりも簡単な本から多読を始めた学生の方がよりTOEICの成績が伸びるという調査結果を高瀬 (2010) は報告している。文章の構造を正確に分析及び理解するための精読とは異なり、多読は大量のインプットによって流暢さを向上させる活動である。

(3) 分からない単語は推測し、辞書は引かない。 知らない語に出くわした時、飛ばし読みしたり、すぐ辞書を引いたりするよりも、前後の文脈や絵から単語の意味を推測する方が、より深い意味処理が行われるので、結果としてその単語の知識が定着しやすいという報告がある。

(4) 戻り読みをしたり和訳をしない。 英文を読む際に主語がどれで動詞がどれかと逐一分析したり、単語を日本語におきかえていると流暢な読み方ができない。リスニングのよ



うに文の頭から情報を処理することが大事である。その意味でも辞書は読みの流れを止めてしまうので多読中は利用するべきでなく、そのためにも易しめの本の選択が必須である。

(5) 本を持ち歩き、いつでもどこでも読めるようにする。 短時間でも集中して読むチャンスがあればいつでも読めるようにしておくべきである。Campbell, 他 (2015) では、読破語数が多い学生に見られる傾向として、読書時間を長時間設けるのではなく、電車の中や授業の合間など空き時間をうまく使えるようにいつでも本を持ち歩き、生活のリズムの中に多読活動を組み込んでいることが分かった。その他、読む時間を決めたり（寝る前、電車の中など）読みの時間を計ってみたりすることも有効である。

(6) 文章を読みながら自問する・予測する。 「次はどうなるのだろうか?」「作者はなにを言いたのだろうか?」と自問することで、的を絞り、集中的に取り組むことが可能となる。

(7) 物語を視覚化したり、登場人物の声を想像したりする。 登場人物の気持ちに寄り添って、読み進めるのも良い。

(8) 構造に注意を払う。 各文やパラグラフが他のパートとどのように関係し、どのように文が構成されているかに注意を払えば、メイン・アイディアが分かり、理解が深まる。

このようにみると、外国語で効果的に多読をするためには、母語で読む時の読み方に近づけることが求められるのかもしれない。

Campbell, 他 (2015) "Characterizing Best Practices in a Large-Scale Extensive Reading Program" 『研究論叢』 第85号

天満 美智子 (1994) 『新しい英文読解法』 岩波新書

高瀬 敦子 (2010) 『英語多読多読指導マニュアル』 大修館

* 谷村 緑, Iain Davey, Rebecca Calman, Andy Clark, Campbell Aaron, 吉田 真美